



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (22) 7207 番

95.7.17 No. 4224

# 法たる歴然の日の議決国会

村山政権による「戦後五〇年国会決議」が衆議院において強行採決されたことは、すでに周知のごとくである。

## 「謝罪」、「不戦」、「賠償」

## なき日本の「戦後五〇年決議」

本稿では、この「戦後五〇年国会決議」を、大戦における「同盟国」であった、ドイツにおいて一九八五年に出された、「戦後四〇年」テキストとの対比を通して(その全文のほんの一部分のみの抜粋ですが)、いかに今次「国会決議」が基調に乏しく、格調なきものであり、あまりにも不遜極まりないものであるか、明らかにしていきたいと考える。

## 犯罪的な政権の非人間的な目標

## 達成に役立ってしまった悔恨!

テキストは言う。(一九四五年五月八日にヨーロッパにおいて、第二次世界大戦が終結した)「五月八日は、われわれドイツ人にとっては、祝うべき日ではありません。戦争中は、大部分のドイツ人が、自分たちは、祖国にとってよいことのために戦い、苦しまなければならぬのだと信じこんでいました。そして、今や明らかにならざるを得なかったこと、それは、ただ単に、そのすべてが無駄であり、無意味であったというだけではなくて、犯罪的な政権が目指した非人間的な目標の達成に役立ってしまったということであり

ます。

## まじりけなしに思い起すこと!

「われわれは、一九四五年五月八日を(ナチの政権獲得の日である)一九三三年一月三〇日から切り離すことは許されないであります」

「五月八日は、思い起す日であります。思い起すとは、ひとつの出来事を正直に、まじりけなしに思い起し、その出来事が自分の存在の内部の一部になってしまいうほどにするということであります。きょうわれわれは、悲しみをもって思い起します。戦争と暴力支配の犠牲となつて死んだ人たちのことを。何よりもわれわれは思い起します。ドイツの強制収容所にあつて殺された六〇〇万のユダヤ人たちの。戦争のゆえに苦しんだすべての民族を。何よりも、そのいのちを失った、数えきれないほどのソ連、そしてポーランドの市民たちのことを。われわれは、ドイツ人なるが故に、悲しみをもって思い起します。兵士となつて死んだ同胞故郷にあつて空襲のために死んだ同胞、捕らえられて、あるいは故郷を追われて死んでいった同胞のことを。射殺された捕虜たちを。われわれに占領されたすべての国々で抵抗して犠牲となつた人たちのことを。われわれは、ドイツ人なるが故に、ドイツにおいて抵抗運動を起こして犠牲となつた人たちの尊敬の思いをもつて思い起します。市民として、軍人として、

て、また信仰の故に抵抗した人たち、労働者として、労働運動、労働組合において抵抗した人たち、コミニニストとして抵抗した人たちのことでもあります。

われわれは思い起します。良心を曲げるよりも死を選んだ人たちのことを。これらの見渡すこともできないほどの死者の大軍と並んで、大きな山なみのような人間の苦しみがあります。

## 免罪なき戦争犯罪への加担!

ユダヤ人に対する民族絶滅の行為は、歴史上例を見ないものであります。ユダヤ人の人びとは、まず冷酷な無関心にさらされ、更にひそかな非寛容な態度をもつて冷遇され、遂には明らかにさまな憎悪の対象とされたのです。ユダヤ人が、ユダヤの星の烙印を帯びさせられ、法的権利を奪われ、人間としての尊厳を絶えず冒瀆されていった時、それを知らず知らずのうちに誰が言えるでしょうか。ユダヤ人絶滅のやり方と規模のひどきは、人間の想像を絶するものであつたでしょう。しかし、本当のところ、多くの人が、そこで起つていたことを知らないです。そして、この犯罪に加担したことであつたのであります。

われわれはすべてこの過去を引き受けなければなりません。過去を変えることは出来ない!

この過去を清算することが大切なのはありませぬ。それは、われわれには全く不可能であります。過去を、あとから変更したり、なかつたことにすることはできないのです。しかし、過去に対して目を閉じる者は、現在を見る目を持たないのであります。かつての非人間的な事柄を思い起したくない者は、新しく起る非人間的なるものの伝染力に負けてしまふものなのであります。

われわれにとって大切なことは、われわれ自身の内部に、つまり、われわれが考えたり、感情を抱いたりする、まさにそのところに、みずから戒めるための記念碑を建てるということでもあります。

いかがでしょうか。「国会決議」で言う、「歴史観」云々とはまさに雲泥の差です。

「われわれが傲慢になつたり、自分を正当化するものは何も無い」ということは本当であります。しかし現在における自分の態度を定める基準とし、まだ解決していない課題に向かう手引きとして用いることができるならば、「とす、このテキストはこう結ばれています。」

「このころの内にある正義の規範に仕える者となりましょう。きょう、この五月八日に、なしうる限り、真理をしっかりと見つめようではありませんか」と。